

第5期横浜市港南区地区センター 第2回指定管理者選定委員会 議事録

開催日時	令和8年8月6日（木） 午前10時35分～午前11時50分
開催場所	港南区役所5階 特別会議室
出席者	小室委員、長沼委員、藤崎委員、宮島委員、宮田委員（計5名）
欠席者	無し
開催形態	公開（傍聴人なし）、議題2（審議）から非公開
議題	はじめに（横浜市永谷地区センターの指定管理者の選定について） 1 面接審査 2 審議
面接審査 ・ 審議	1 永谷地区センター面接審査について 1団体あたり、10分間のプレゼンテーション及び15分程度の質疑応答を行った。団体のプレゼンテーションの概要は次のとおり。 【プレゼンテーション概要】＜応募団体 株式会社有隣堂＞ ・地区センターの設置目的や区政運営の基本目標を基に、地域の特性や地域ニーズを取り入れながら「地域力を育む憩いの場」として運営していく。 ・本部の全面的なバックアップにより、会計報告を通じた厳格な予算管理や業務のデジタル化支援を行う。 ・研修計画については、子どもや高齢者など多様な利用者に配慮した研修や個人情報保護、コンプライアンス研修を行う。また、館長会等により情報共有や意見交換による業務改善を図る。 ・永谷地区センターの地域特性をふまえ、3つのニーズを柱とした運営をする。例えば、プレイルームを活用した子育て支援、自社の強みをいかした図書コーナーでのテーマ展示等、「つながりと憩いの場」を創出する。 ・地域コーディネーターとしての取り組みでは、町内会や学校、他施設との連携により参加者同士の繋がりづくりや地域の活性化を支援する。 ・指定事業では「体操・運動」「未就学児・保護者」など、始めての方でも参加しやすいテーマを5つの柱として設定する。多世代のニーズに応え、仲間との繋がりやサークル活動に発展させていく。 ・自主事業では書店としての強みを生かし、文房具等の販売やイベントに合わせた書籍や物品の販売を行い、地区センターを訪れたくなるよう工夫して運営する。 ・今後の増収策として、空き室活用や講座参加者のサークル化の支援に取り組む。既存の利用団体の定着を図るとともに、個人利用をきっかけとした新規の団体利用を促進し、施設全体の稼働率と利用料金収入を向上させる。得られた収益は館内の環境整備に充てる等、利用者の利便性と居心地を高めるようにする。 【主な質疑内容】 ＜委員＞ 料理室は他の地区センターでも空き室が多いと聞いているが、どのような理由が考えられるか。

なにか解説策はあるか。

<回答>

料理室の利用率は非常に低く、課題感を持っている。調理器具は揃っているが料理室そのものや利用について認知度が低く、利用後の片付けにも手間がかかると感じているかもしれない。こどもたちも参加できる料理教室を開催するなど、利用率を高めていきたい。

<委員>

指定事業について、子育て支援に対する事業は充実しているが高齢者に特化した事業が見当たらない。高齢化が進む中でそのような事業があっても良いと思うが、いかがか。

<回答>

高齢者向けに特化したものではないが、スマホ教室は人気である。その他、ヨガやズンバなど身体を動かす講座は若者から高齢者まで幅広く参加されていることから、高齢者に特化するというよりも多世代が参加し交流が生まれる事業を展開していきたい。

<委員>

コロナ禍があけて地域の活動が活発になってきている一方、小・中学校での団体活動は制限されていると聞いている。小・中学生や高校生の利用率向上や地区センターの役割について、どのように考えているか。

<回答>

永谷地区は昔ながらの住宅に加え新興住宅もあるエリアで、利用者層も少しずつ増えてきているが、地区センターの認知度がなかなか進まない部分もあると感じている。SNSを活用した広報に取り組むほか、プレイルームを利用した保護者の方が遊具の写真をとって他の保護者に周知いただくこともある。また、永谷地区センターは小・中学生の利用者が多く、地元の自治会町内会からも「小・中学生が来やすい環境を作ってほしい」というご意見をいただいている。個人利用ができる体育室の設備更新など、こどもの居場所としての役割を今後も果たしていきたい。

<委員>

自主事業について団体の強みをいかした事業だが、施設の貸館利用に繋がるといえるのか。

<回答>

提案した自主事業A型は地区センターで過ごす時間や居心地を良くするための取り組みで、B型は地区センターの利用経験がない方に向けて地区センターに興味をもっていただくためのきっかけづくりとして位置づけており、貸館業務に繋げていく想定をしている。

<委員>

料理室も含め、未利用者・潜在利用者を掘り起こし、利用につなげるような施策案があるか。指定期間の中で検討している具体策があれば教えていただきたい。

<回答>

施設のPRは課題と感じている。永谷地区センターにとどまらず外に飛び出していく取り組みとして、自治会町内会や学校に出向いて事業を開催したり、保育園に地区センターだよりを配っていただいたりしている。また、SNSを使って外部へのPRを図っていく。

<委員>

施設で働く職員について、作業効率化により働きやすい環境をつくろうとしていることが伺えた。削減された時間はどのように利用者サービスや地域へ還元していくのか。

<回答>

業務効率化と利便性が直結する一例として、イベントのインターネット申込が挙げられる。申込手続きは、利用者にとっても地区センター職員にとっても機械的なやり取りになりがちだが、

	利便性を上げるためにインターネットを活用する。その代わりに捻出できた時間を利用者との日常的なコミュニケーションや外への出張に充てて、新規利用者の獲得や出会いの場になるようにしていきたいと考えている。 <委員> 個人情報の取り扱いについて、チェック体制や手順などは整備されているか。 <回答> 会社全体で個人情報に関する研修を行っている。個人情報の取り扱いについても棚卸しやプロセスチェックは組織的な体制をつくって対応しており、個人情報の漏洩に繋がるような事故がないように対策を考えている。 2 審議 【委員意見】 ・事業者の特色が出ている提案内容で、安定した運営が期待できる。 ・図書の充実をはじめ、強みをいかした施設づくりが期待できる。 ・現場の声や対応状況がよく分かる説明だった。 ・自治会町内会や学校など地域との連携が非常に充実している。 ・高齢者の孤独化が問題視されている昨今において、高齢者同士の繋がりづくりという視点が弱い。 ・各種事業の参加人数が少ないようで、勿体ない。 ・事業の実施等、提案内容と施設利用状況の因果関係が見えづらい。提案内容を実行していくうえで、優先順位をつけて実装していけるのか懸念が残る。 ・地区センターへの苦情対応や設備点検、環境改善に改善の余地がある。 ・財務状況については、売上・利益は回復傾向にある一方、書店業の構造的な問題もあり財務基盤には課題が残る。今後は、自社の強みを活かした多角化経営を進め、収益力を高めていくことが重要だと考えられる。
審議結果	・株式会社有隣堂を横浜市永谷地区センター指定管理者の指定候補者とする（759点/925点）。
特記事項	特になし